

5 都市づくりの主要課題

都市計画マスタープラン改定のねらい

●本市が持つ多様な魅力と個性を磨きあげる

●本市の特性を踏まえた都市づくりの展開

●持続可能な成熟した都市の形成

視点1	都市構造	視点2	都市活力	視点3	都市生活	視点4	都市環境
-----	------	-----	------	-----	------	-----	------

時代の潮流

◇人口減少、高齢化の進展 ◇リニア中央新幹線の開業 ◇民間活力や新技術（IoT、AI など）の進展 ◇大規模自然災害などに対する意識の高まり ◇美しく魅力ある地域づくり ◇環境問題の深刻化 ◇公共空間をいかしたまちづくり ◇持続可能な都市づくり

本市の魅力・現状

魅力

- 市域全体では人口が当面増加する見込み
- 総人口の約9割が市街化区域に居住し、その人口密度はDIDの基準値を上回る
- DIDが市街化区域とおおむね一致しており、適正な市街地が形成
- 市街地の大半が土地区画整理事業で整備された区域
- 3路線の鉄道・9つの鉄道駅を有することに加え、刈谷駅は様々な交通機関に乗継が可能な主要駅
- 公共施設連絡バス「かりまる」が6路線運行

- 製造品出荷額等は全国で上位
- 自動車関連産業の本社が複数立地
- 刈谷ハイウェイオアシスをはじめとする観光資源が存在
- 刈谷スマートICが令和4年（2022年）に開通
- 物流や交流を支える幹線道路の整備水準が高い

- 市街化区域において、日常生活に必要な施設が徒歩で利用できる範囲におおむね分布
- 市内全域で公共施設連絡バス「かりまる」がおおむね利用可能
- 全ての鉄道駅でバリアフリー化が完了
- 都市公園の整備水準が高い
- 上下水道の整備水準が高い
- 住宅の耐震化率が高い
- 刈谷市体育館やウイングアリーナ刈谷などのスポーツ施設が充実

- 洲原池をはじめとする北部のため池群や国の天然記念物に指定されている小堤西池のカキツバタ群落、郊外におけるまとまりのある優良農地など、水と緑の豊かな自然環境が存在
- 刈谷城跡や万燈祭をはじめとする歴史・文化資源が豊富
- 鉄道、バスともに利用者数が増加傾向

現状

- 刈谷駅周辺において、人口密度が低い地区がある
- 子育て世代の転出が顕著
- 高齢化が進行
- 市街化区域において、一団の計画的開発が可能なまとまった土地がない
- 中心市街地において、都市の拠点にも関わらず、都市的な低未利用地が多く、高度利用が図られていない
- 準工業地域では多くのエリアで住工混在がみられる
- 南北を結ぶ公共交通や幹線道路の交通ネットワークが弱い

- 市街化区域において、一団の計画的開発が可能なまとまった土地がない
- 幹線道路の整備率が高い中、多車線道路の整備率は低い
- 製造品出荷額等の約6割を輸送用機械器具製造業が占めている
- 製造業に特化した就業・従業構造である

- 高齢化が進行
- 都市機能の立地状況は、中心市街地と郊外部で差がない
- 通勤時間帯に交通渋滞が慢性的に発生
- 集中豪雨により、河川沿いや立体交差道路など局地的に地盤が低い箇所の浸水が想定される
- 南海トラフ地震の発生が予想されている

- 都市化により自然環境が失われつつある
- 緑や自然を身近に感じることができるとする市民の割合が減少傾向
- 自動車分担率が約7割と高い
- 通勤時間帯に交通渋滞が慢性的に発生

都市づくりの主要課題

●集約と連携で支え合う都市構造の実現
 利便性が高い鉄道駅周辺などにおいて、多様な都市機能が集積する拠点を形成するとともに、各拠点間を公共交通などにより連携し、相互に機能を分担しながら支え合う都市構造の実現をめざしていくことが必要です。

代表的な施策

- 中心市街地への都市機能集積
- 郊外における拠点形成と連携

●市外への転出の抑制
 子育て世代の定住を促進するため、中心市街地における土地の高度・有効利用や低未利用地の活用とともに、既存ストックが活用できる区域での新たな市街地整備により住宅地を確保していくことが必要です。また、人口密度の低下が懸念される中心市街地が、市民に選ばれ続けるため、さらなる魅力の向上を図っていくことが必要です。

代表的な施策

- 新たな住居系市街地の創出
- 土地の高度・有効利用

●市域全体のバランスある発展
 中部から南部にかけて集積する工業機能については、交通利便性をいかし、さらなる集積強化を図っていくことが必要です。また、広域交通体系への玄関口が設置された北部地域においても、周辺幹線道路の整備を進めるとともに、新たな産業用地の創出など産業競争力を強化していくことが必要です。

代表的な施策

- 新たな産業系市街地の創出
- 幹線道路の整備促進

●地域資源をいかした交流の促進・拡大
 名古屋駅と約18分で結ばれる刈谷駅周辺において、リニア中央新幹線の開業に向け多様な都市機能の立地ポテンシャルを高めていくことが必要です。また、刈谷スマートICが開通し、これら広域交通体系の整備効果を踏まえ、本市の有する多様な地域資源をいかした、さらなる交流の促進・拡大を図っていくことが必要です。

代表的な施策

- 刈谷スマートICの整備効果をいかした交流促進
- 交流拠点機能（宿泊、オフィス、商業など）の誘導

●安心・安全・快適に暮らせる環境の確保
 日常生活に必要な身近な施設がおおむね充足しており、公共交通も利用できる状況であることから、今後もこれらを維持、充実していくことが必要です。また道路、鉄道駅、公園などの公共施設に対し、選択と集中を踏まえた整備、長寿命化、質の向上を図っていくことが必要です。

代表的な施策

- 日常生活に必要な身近な施設の維持・充実
- 歩行空間のバリアフリー化、JR 刈谷駅総合改善事業

●大規模自然災害などへの対応
 南海トラフ地震の発生が予想されていることに加え、近年多発する集中豪雨などのリスクが高まっていることから、引き続き、防災・減災対策を図っていくことが必要です。

代表的な施策

- 道路・河川・下水などインフラの改修及び維持管理
- 民間建築物の耐震化促進

●豊かな自然環境と歴史・文化資源の保全・活用
 地域住民が誇りと愛着を感じられるよう、豊かな自然環境や景観、数多くの歴史・文化資源を最大限いかした魅力ある都市づくりを進めていくことが必要です。

代表的な施策

- 小堤西池のカキツバタ群落や優良農地などの自然環境の保全
- 中心市街地まちづくり基本計画の推進

●環境負荷の少ない都市の形成
 地域特性を踏まえ都市に存在する緑地の保全に努めるとともに、都市機能の集約と公共交通の利便性向上・利用促進を図り、過度に自動車に頼らない環境負荷の少ない都市づくりを進めていくことが必要です。

代表的な施策

- 公共交通の体系強化・利用促進